

『デジタル写真』要素

デジタル写真は、モノクローム現像に似ています。シャッターを押しただけでは終わりません。その後に行うことがとても大切です。撮影時点のイメージに近づける。よりビジュアルに現像する。そのために、写真の基本をしっかり身に付ける必要があります。デジタルになって今まで以上に絵心が必要になってきました。

画面構成	カメラがどんなに進化してもやってくれないもの。必要と不必要のバランスとリズム。被写体に迫る迫力。光と影。形などなど撮影者の意図が凝縮されたものが画面構成である。
適切な露出 ホワイトバランス	ダイナミックレンジや多重露光を駆使し、白飛びを起こさないこと。黒つぶれを極力少なくすること。よりグラデーションのある露出を心がけること。光源を読み、適切な色を出すこと（ホワイトバランス）
フォーカス	手ブレ、被写体ブレは以ての外。不必要な絞りをしない（デジタルは被写界深度が深い）。適切な三脚の使用、風を読む工夫などが必要。デジタルカメラの特性によるシャープ性の欠如は救えても、手ブレなどはレタッチでも救えない。

デジタルの特性

ランニングコスト	メモリーカード、メディア、保存方法
撮像素子の違い	大きさ、CCD、CMOS
レンズ	デジタル専用とフィルム用の違い
撮影設定	RAW, JPEG, TIFFについて
ヒストグラム	撮影しようとした画面構成の露出分布グラフ
消費電力を抑える	オートオフ、オートフォーカス、液晶モニターの使い方
電池力について	寒冷地での撮影法
キャリブレーション	色の統一について
プリンター	顔料系インクと染料系インク、保存方法
印刷用紙	光沢、マット紙、メーカーの違い
写真展と印刷原稿	撮影とレタッチ、デジタル現像の方法

デジタルになったことによって、聴いた事のない言葉やより面倒くさいというニュアンスがあるかと思います。ですが、撮影することと、レタッチすることを最初は分けて考えると意識の負担が少なくなります。また、デジタル特性を活かせるようになると、如何にデジタルが便利で撮影の失敗が少なくなるかが分かります。焦らずに一つ一つこなして行ってください。フィルムを購入すること、現像に出しに行くことなどもなくなります。

レタッチを覚えてくると、非常に楽しくなってきます。上記の「デジタルの特性」は、箇条書きです。撮影の基本、撮影地別の撮り方、レタッチや印刷の方法まで『今から始める山のデジタル写真』に詳しく掲載されています。

今までフィルムカメラを使ってきた方は、デジタルの特性を覚えれば良いわけですから、焦らずにしっかり会得してください。